

令和6年度

# 「運営に関する計画」

(最終評価)

日本橋小中一貫校  
大阪市立日本橋中学校  
大阪市立浪速小学校

令和7年3月

日本橋小中一貫校 大阪市立浪速小学校 大阪市立日本橋中学校  
令和6年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

- ・本校は、施設一体型小中一貫校として、平成29年度に開校した。開校当初から多くの課題に順応し解決解消を、教職員、保護者、地域と共に行い、学校運営の基盤を策定してきた。大阪府教育振興基本計画に従い、令和7年度末までの期間を更なる本校の成長期と位置づけ組織構造の見直しと更なる発展が求められている。
- ・児童生徒への意識調査結果から自己肯定感が全国平均と比較すると、かなり低い現状であるため、キャリア教育の充実、学力向上の推進などを進めることが求められている。
- ・ICT教育を積極的に発展させることや、カリキュラムマネジメントを展開するなど、教職員の資質向上、授業力向上を更に進める必要がある。
- ・開校以来、児童生徒への深い愛情と、本校教育活動へのご支援を戴いている地域の方々や、PTA活動をしてくださっている皆様と今以上に連携を重ね、本校の教育活動に取り組む必要がある。
- ・改正義務教育標準法（公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律）に基づく学級数の増加に伴い、教室配備や施設整備を計画的に行う。小中一貫校としての組織運営を強靱なものとし、業務効率の向上、教職員間の協働、働き方改革を進める。

### 中期目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

#### ＜安全・安心な教育環境の実現＞

##### （小学校）

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。

前年度：80.6%

- 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を92%以上にする。

前年度：93.2%

##### （中学校）

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。

前年度：71.1%

- 年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を96%以上にする。

前年度：89.4%

#### ＜豊かな心の育成＞

##### 「特別支援教育の推進」

- 特別支援コーディネーターを1名以上配置し、生徒情報交換会（小中連携会）を毎月2回以上実施する。また中学校入学前の特別支援学級に在籍している児童の様子を毎学期2回以上確認する。

##### 「校内美化」

- 校内美化の活動を通じて、年度末の校内調査で「いっしょうけんめい清掃活動をしてい

ますか」の質問に対して肯定的な回答を毎年 85%以上に保つ。

令和 4 年度：小 85.0%・中 88.4%、令和 5 年度：小 83.3%・中 89.4%

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

＜誰一人取り残さない学力の向上＞

（小学校）

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 35%以上にする。前年度：37.3%

（中学校）

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を 45%以上にする。前年度：42.3%

- 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を令和 7 年まで 40%以上に保つ。

令和 4 年度：36.4%、令和 5 年度：64.4%

＜健やかな体の育成＞

（小学校）

- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を令和 7 年度までに 62.6%以上にする。前年度：64.6%

（中学校）

- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童生徒の割合を令和 7 年度までに 53.6%以上にする。前年度：47.9%

**【学びを支える教育環境の充実】**

＜教育 D X（デジタルトランスフォーメーション）の推進＞

- 授業日において、児童生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数を毎年向上させ、令和 7 年度に 75%にする。

＜生涯学習の支援＞

- 年度末の校内調査で「本を読むのが好きですか」という項目に肯定的に回答する児童生徒の割合を、毎年増加させる。

令和 4 年度：小 88.8%・中 67.6%、令和 5 年度：小 84.7%・中 67.9%

＜人材の確保・育成としなやかな組織づくり＞

- 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を、85%以上に保つ。

令和 4 年度：83.3%、令和 5 年度：87.3%

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

#### <安全・安心な教育環境の実現>

(小学校)

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。

前年度：80.6%

- 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 93.3%以上にする。

前年度：93.2%

(中学校)

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を 80%以上にする。

前年度：71.1%

- 年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 90%以上にする。

前年度：89.4%

#### <豊かな心の育成>

##### 「特別支援教育の推進」

- 特別支援コーディネーターを 1 名以上配置し、生徒情報交換会（小中連携会）を毎月 1 回実施する。中学校入学前の特別支援学級に在籍している児童の様子を毎学期 1 回確認する。

##### 「校内美化」

- 校内美化の活動を通じて、年度末の校内調査で「いっしょうけんめい清掃活動をしていますか」の質問に対して肯定的な回答を 85%以上にする。

前年度：小 83.3%・中 89.4%

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### <誰一人取り残さない学力の向上>

(小学校)

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 35%以上に保つ。

前年度：37.3%

- 漢字検定試験を、小学校 3 年生と 4 年生において毎年実施し、個々の設定した目標に対する合格率を 65%以上にする。

前年度：93%

(中学校)

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を 45%以上にする。

前年度：42.3%

- 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合(4 技能)を 64.5%以上にする。

令和 4 年度：36.4%、令和 5 年度：64.4%

＜健やかな体の育成＞

（小学校）

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 62.6%以上に保つ。

前年度：64.6%

（中学校）

○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童生徒の割合を 50%以上にする。

前年度：47.9%

【学びを支える教育環境の充実】

＜教育D X（デジタルトランスフォーメーション）の推進＞

○授業日において、児童生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T活用が適さない日数を除く〕

＜生涯学習の支援＞

○年度末の校内調査で「本を読むのが好きですか」という項目に肯定的に回答する児童生徒の割合を、前年度より増加させる。

前年度：小 84.7%・中 67.9%

＜人材の確保・育成としなやかな組織づくり＞

○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を、85%以上にする。

前年度：87.3%

3 本年度の自己評価結果の総括

・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合については、小学校で 79.0%、中学校で 72.7%、肯定的な「思う」「そう思う」については小学校で 93.5%、中学校で 90.9%と小中とも 9 割以上となっている。「服装や時間、学校の規則を守っていますか」に対しては、肯定的な「思う」「そう思う」については小学校で 90.5%、中学校で 88.6%と小中とも 9 割ほどとなっている。遅刻して登校する児童生徒が少なからずいることから、時間を守ることができていないと回答している児童生徒もいると考えられる。また、一貫校は全市募集であり校区外から通学する児童生徒は、小学校で 30%、中学校で 20%と多いことも一つの要因であると考えられる。

・清掃活動については、年 2 回の清掃強化月間を設けることにより、児童生徒の美化意識も高まり、「いっしょうけんめい清掃活動をしていますか」とのアンケートに対して、肯定的な回答が小学校 95%、中学校 88%と高い。

・学習について、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対し、校内アンケートでは肯定的な回答の割合は、小学校 83%、中学校 81%と高く、小中ともに昨年度より 5 ポイント上回っている。「積極的に授業に参加できている」、「授業はわかりやすい」のアンケートについては、小中ともに 9 割以上が肯定的な回答であり、主体的・対話的で深い学びにつながる授業を実施し、研究授業や公開授業においても校内で検討会を実施していることもこれらの数値に表れていると思われる。

- ・ I C Tの活用においては、小学校では授業開始前にデジタル計算ドリルを実施したり、グループで話し合った内容を学習者用端末で編集して発表したりと活用できる場面を広げ、端末活用率も徐々に上がってきている。また、学習者用端末を一斉に接続すると、ネットワークに負荷がかかりつながり難い状況があり、分散させて利用するなどの必要があるため、ネットワーク環境が改善されればさらに活用の幅も広がり活用率についても上がると思われる。今後も、委員会や I C T教育支援員の支援も得ながら、 I C T機器を活用することにより得られた新しい教育活動の利点も考慮し、次年度の中期目標最終評価に向けてそれぞれの活動に取り組む必要がある。
- ・働き方改革については、他校の取り組みも参考にしながら、有給休暇の取得しやすい環境や時間外勤務時間の短縮に向けて検討し取り組む必要がある。

日本橋小中一貫校 大阪市立浪速小学校 大阪市立日本橋中学校  
令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組まず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</b>  <b>（生活指導）</b>          ＜安全・安心な教育環境の実現＞          （小学校）          ○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 85% 以上にする。 前年度：小 80.6%          ○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 93.3% 以上にする。 前年度：小 93.2%          （中学校）          ○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を 80% 以上にする。 前年度：中 71.1%          ○年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 90% 以上にする。 前年度：中 89.4%          ＜豊かな心の育成＞          「特別支援教育の推進」          ○特別支援コーディネーターを 1 名以上配置し、生徒情報交換会（小中連携会）を毎月 1 回実施し、中学校入学前の特別支援学級に在籍している児童の様子を毎学期 1 回確認する。          「校内美化」（健康教育）          ○校内美化の活動を通じて、年度末の校内調査で「いっしょけんめい清掃活動をしていますか」の質問に対して肯定的な回答を 85% 以上にする。 前年度：小 87.7%・中 89.4%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】（生活指導）</b>          いじめ解消・暴力行為の減少において、「いじめについて考える日」を小中それぞれ年 1 回設定し、学校長の講話を実施する。また、集会等でもいじめや他者理解について話をを行い、いじめ解消に向けた啓発活動を実施する。</p> <hr/> <p>指標          学力経年・校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童割合を 85% 以上にし、生徒割合を 80% 以上にする。 前年度：小 80.6%・中 71.1%</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
2 学期に実施された学力経年・校内調査の結果は小学校 70.2%・中学校 73%であった。年度初めに全校集会で「いじめ（いのち）について考える日」を学校長より講話を実施し、学期ごとに集会等で小中ともに継続して講話することができた。また、各学年での取り組みや活動を実施することで他者理解や共存する社会への理解にも貢献することができた。	
次年度への改善点	
来年度も年度初めに学校長からの講話を実施し、いじめアンケートや長期休暇明けの教育相談を継続し、「いじめ」についての規範意識を児童・生徒に向上させる必要がある。また、日頃から児童・生徒をよく観察し、事案に対して早期発見・対応ができるよう、今後いじめ対策委員会（校内）を設置し、外部機関との連携も含め、組織的な指導や対応を引き続き行う。	
取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】（生活指導）	B
規則遵守において、生活指導の方針にそって子どもたちへの説明を期初に実施する。毎月の集会指導等でできまりの確認・啓発を実施する。マンパワー強化を目的に週 4 日配置の生活指導支援員と協力を得るように常に働きかけ、小中ともに生活目標を設定し、啓発活動を実施する。	
指標 小学校学力経年調査で「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 93.3%以上にする。また、中学校では校内調査に「学校の規則を守っていますか。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 90%以上にする。 前年度：小 93.2%・中 89.4%	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
学力経年・行内調査で「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的な回答をする児童・生徒の割合は、2 学期は小学校 91.0%・中学校 88.6%という結果になり、中間反省も含め、小中ともに上回ることができなかった。2 学期に入り登校時間が全体的に遅くなっていることも「時間を守れていない」に繋がってしまった。また、小学校では看護当番を変更し、朝の校門指導を中学校教職員に依頼することで朝の教室登校後指導は充実したが、廊下や階段での看護が疎かになり、校内を走る児童への指導が行き届かなくなってしまったことも要因である。	
次年度への改善点	
2 学期に実施した児童会・生徒会による合同あいさつ運動ではあいさつをしようといつてもより早く登校する児童・生徒も見受けられたので、来年度以降は今年度より積極的に取り組めるようにしたい。小中ともに看護体制をもう一度見直し、校内安全の徹底ができるような体制を整える必要がある。	
取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現】（生活指導）	A
（特別支援教育の推進） 小中一貫校の特性を活かし、生徒情報交換会（小中連携会）を実施し、学年や職員会議を通して学校全体の共通理解を図る。また、中学校入学前の特別支援学級に在籍している児童の様子を確認する。	
指標 特別支援コーディネーターを小学校で 2 名、中学校で 1 名配置し、生徒情報交換会（小中連携会）を毎月 1 回実施する。また、中学校入学に備えて特別支援学級に在籍している児童の様子を毎学期 1 回確認する。	



年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
特別支援コーディネーターを中心に密に小中連携を図ることで、児童・生徒の対応については円滑に進めることができた。特に児童・生徒の実態把握については、日頃から情報交換を行うことで共有できている。	
次年度への改善点	
来年度も引き続き毎月の部会で特別支援コーディネーターを中心に小中連携を図りながら、さらに円滑な支援が進められるように配慮する。	
取組内容④【5 健やかな体の育成】（健康教育）	B
児童生徒の美化意識を育むために、清掃強化週間を設定する。また、清掃用具や清掃活動の方法を整備する。	
指標	
校内調査で「いっしょうけんめい清掃活動をしていますか」の質問に対して肯定的な回答を85%以上にする。	
前年 小87.7%・中89.4%	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
年度末の校内調査では「いっしょうけんめい清掃活動をしていますか」の質問に対して肯定的な回答が、小学校95%、中学校88%であり、指標を上回った。	
小学校の環境・美化委員会、中学校の美化委員会が中心となり、6月と12月の年間2回清掃強化週間（キラリ週間）を実地し、校内美化に対する意識を高めることができた。	
また、昨年度末より小学校の清掃時間を5限目終了後から給食後に変更したことにより、余裕をもって清掃活動に取り組むことができている。その結果、いっしょうけんめい清掃活動に取り組む習慣が定着してきた。	
次年度への改善点	
来年度も引き続き児童・生徒の校内美化への高い意識が維持できるように、清掃強化週間（キラリ週間）や委員会活動を通じてはたらきかけを行う。	

日本橋小中一貫校 大阪市立浪速小学校 大阪市立日本橋中学校  
令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b>  <b>（学力向上）</b>          ＜誰一人取り残さない学力の向上＞          （小学校）          ○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を35%以上に保つ。  <span style="float: right;">前年度：37.3%</span>          ○漢字検定試験を、小学校3年生と4年生において毎年実施し、個々の設定した目標に対する合格률을65%以上にする。  <span style="float: right;">前年度：93%</span>          （中学校）          ○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を45%以上にする。  <span style="float: right;">前年度：42.3%</span>          ○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を64.5%以上にする。  <span style="float: right;">令和4年度：36.4%、令和5年度：64.4%</span></p> <p><b>（健康教育）</b>          ＜健やかな体の育成＞          （小学校）          ○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を62.6%以上に保つ。  <span style="float: right;">前年度：64.6%</span>          （中学校）          ○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童生徒の割合を50%以上にする。  <span style="float: right;">前年度：47.9%</span></p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】（学力向上「小学校」）</b>          「個別最適な学びの充実」をテーマとして設定し、知識・技能の定着をめざす。</p> <hr/> <p><b>指標</b>          学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を35%以上に保つ。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<p>今年度は、「個別最適な学びの充実～知識・技能の定着を目指して～」をテーマに算数科を中心に取り組んだ。まず、「自分の考えを表現する」ための手立てとして、ヒントとなる既習事項を掲示したり、算数用語のキーワードの提示をしたりすることによってノートに自分の考えを書くことができるようになってきた。</p> <p>また、「自分の考えを話す」方法を身につけさせるために、各教室に話し方を掲示し説明の仕方を統一した。そうすることで、説明の手順が明確になり分かりやすく伝えあうことができ、さらに、主体的に自分の考えを表現し話し合う活動を充実させることができるようになってきた。</p> <p>学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対し、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合は 34.2%に留まったが、指標に近い結果を達成することができた。</p>		
次年度への改善点		
<p>知識・技能を確実に定着させるためにつまずきやすい内容を明確にして、反復練習をすることにより既習内容を活用する力の育成が必要である。</p>		
<p><b>取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】(学力向上「中学校」)</b></p> <p>「言語能力の育成を通して知識の基盤を作る」をテーマとして設定し、知識・技能の定着をめざす。</p>		B
<p>指標</p> <p>年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を 45%以上にする。</p>		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<p>昨年度に比べて、3 学年とも授業の中で学級の生徒との間で話し合う機会を増やすことができた。また、7 年生では校外学習に向けての取り組み、8 年生では職業体験に向けての取り組みなど、総合や特別活動の時間において話し合う活動を積極的に取り入れて進めることができた。</p> <p>その結果、学校アンケートの「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、否定的な回答を 24.6%から 19%に減らすことができた。しかし、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合は 38%にとどまり指標の 45%以上を達成することができなかった。</p> <p>要因のひとつとして、授業での生徒間で話し合う機会は増えたが、話し合う活動に目的をもって参加できていない生徒もあり、話し合う活動が自分の考えを深めたり広げたりすることにつながっていない生徒も見られることが考えられる。</p>		
次年度への改善点		
<p>今後は、話し合う活動の形骸化を防ぐために、活動目的の共通理解や問題解決意識を高めるなど、活動に対する動機づけの部分を意識した話し合いを行っていく必要がある。</p>		
<p><b>取組内容③【4 誰一人取り残さない学力の向上】(学力向上「小学校」)</b></p> <p>デジタルドリルやプリントなどを活用し反復練習を行い、知識・技能の定着を図る。</p>		A
<p>指標</p> <p>漢字検定試験を、小学校 3 年生と 4 年生において実施し、個々の設定した目標に対する合格率を 65%以上にする。</p>		

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>基礎的・基本的な計算力をつけるために、毎週1回朝の計算タイムを設け、デジタルドリル（ナビマ）を活用した反復練習に取り組んだ。その結果、集中して取り組む姿勢や計算への自信をつけることで知識・技能の定着に結び付けることができてきた。</p> <p>また、3、4年生を対象に4月当初より策定した通り、漢字検定の学習計画を実行し受験できた。日々、漢字練習をしたり、過去問題やプレテストに取り組んだりしてきた結果個々の設定した目標に対する合格率は93.5%と目標数値を大幅に上回り達成することができた。</p>	
次年度への改善点	
<p>今後は、100ます計算や家庭学習による反復練習など基礎学力を向上させるための取り組みをしていく。</p>	
<p><b>取組内容④【4 誰一人取り残さない学力の向上】（学力向上「中学校」）</b></p> <p>中学3年間を見通した英語教育を推進し、「書くこと」「読むこと」「聞くこと」「話すこと」の技能を高める取り組みを行う。</p>	B
<p><b>指標</b></p> <p>大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を64.5%以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>「読むこと」「聞くこと」についてのスキルを身に付けるために、教科書以外の読み物教材も活用しながら授業を行い、「書くこと」については、単語の小テストを定期的に行った。また、生徒が興味関心を持つようなテーマを設定して、それについて発表するための英文考えさせ書かせるなどの工夫をしながら授業を進めることができた。しかし、CEFRにおけるA1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合は38.8%であり、指標の64.5%までは達成することができなかった。</p>	
次年度への改善点	
<p>今年度はとりわけ「話す」の技能について取り組む時間が少なかったため、今後は4技能をバランスよく指導する。そのために、生徒が興味関心を持つようなテーマを設定してペアやグループで会話をさせるなどの工夫をしながら進めていく。</p>	
<p><b>取組内容⑤【5 健やかな体の育成】（健康教育「小学校」）</b></p> <p>体力をつけるため、児童の主体性を高めながら持久力を伸ばす活動を実施する。</p>	B
<p><b>指標</b></p> <p>小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を62.6%以上に保つ。 <u>前年度：64.6%</u></p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の質問に対して最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合が60.5%であった。</p> <p>1月に運動委員会を中心に「駆け足週間」を実施することができ、児童の持久力向上につながった。</p>	
次年度への改善点	
<p>次年度も3学期に「かけ足週間」を実施し、児童の持久力向上に努める。</p> <p>また、児童が運動を楽しめるような活動を模索し実施できるよう、年度初めに部会で検討する。</p>	

<p><b>取組内容⑥【５ 健やかな体の育成】（健康教育「中学校」）</b></p> <p>運動やスポーツに対する興味を持たせ、体力の向上が図れるように、運動場・体育館の開放を計画的に実施する。</p>	
<p>指標</p> <p>年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 50%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">前年度：47.9%</p>	B
<p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>昼休みに安全に活動できるように大グラウンドに 2 学年、体育館に 1 学年配当し、ボールの貸し出しを行ない、運動に親しみを持たせた結果、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合は 54%となり指標を上回った。</p>	
<p style="text-align: center;">次年度への改善点</p>	
<p>運動場、体育館の開放を継続する。コロナ禍での体力低下も鑑みて段階的に活動を行えるようにする。</p>	

日本橋小中一貫校 大阪市立浪速小学校 大阪市立日本橋中学校  
令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</b> (学力向上)</p> <p>＜教育D X (デジタルトランスフォーメーション) の推進＞</p> <p>○授業日において、児童生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕</p> <p>(教務)</p> <p>＜生涯学習の支援＞</p> <p>○年度末の校内調査で「本を読むのが好きですか」という項目に肯定的に回答する児童生徒の割合を、前年度より増加させる。</p> <p style="text-align: right;">前年度：小 84.7%・中 67.9%</p> <p>(管理職)</p> <p>＜人材の確保・育成としなやかな組織づくり＞</p> <p>○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を、85%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">前年度：87.3%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【6 教育D X (デジタルトランスフォーメーション) の推進】(学力向上)</b></p> <p>学習端末を利用する環境を整え、心の天気やデジタルドリル (Navima)、小学校の学習支援ツール (SkyMenu)、デジタル教科書の活用や、Teams を活用してのオンライン全校朝会や集会、Forms を活用した小テストやアンケートなど端末を利用できる機会を増やす。</p>	B
<p><b>指標</b></p> <p>授業日において、児童生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕</p>	
<p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>小学校では、学習支援ツール (SkyMenu) の発表ノート機能を使って自分の伝えたいことをわかりやすく表現・伝達したり、デジタルドリル (Navima) を活用して反復練習に取り組んだりして知識の定着や技能の習熟を図ることができた。中学校ではインターネットを使って情報収集し、Word や Excel、PowerPoint など活用してプレゼンやレポートの作成、共同編集など、情報を共有することで新たな発見を得ることができた。</p> <p>このように、学習のツールの一つとして学習端末を利用する機会を増やすことができた。しかし、今年度は児童生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数は、小中合わせて 13 日であり目標数値を達成できなかったが、活用率は徐々に向上している。</p>	

次年度への改善点	
インターネット環境を整える。 ICTを適切に活用できるように道徳や総合的学習の時間を活用し、学年に応じた情報モラルに関する指導をしていく。 次年度も引き続きICT教育アシスタントの支援により、ICT機器を活用した授業支援や校内研修を実施する。	
取組内容②【8 生涯学習の支援】(教務)	B
読み聞かせや朝の読書、絵本の広場等の活動を通して読書についての意識を向上させる。	
指標 年度末の校内調査で「本を読むのが好きですか」という項目に肯定的に回答する児童生徒の割合を前年度より向上させる。前年：小学校 89%・中学校 68%	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
2学期に実施された学校アンケートの結果は小学校 95%・中学校 61%という結果になった。小学校は年間を通して行ってきた毎週火曜日と金曜日の朝の読書や、月に一度実施している朝の読み聞かせの効果があったと思われる。2学期以降、行事等で利用回数が減ったクラスもあったが、図書委員会が行っている休み時間の図書館開放などを利用した結果だと考えられる。 中学校では、読書を習慣付けできるように7年生の廊下に読書の本を掲示したり、学年集会で委員会からよびかけを行ったりして、生徒への意識付けを行った。また、上半期に引き続き、読書の時間に学級文庫を利用したり、家から小説を持ってきたりして読書に親しむ環境を整えている。 10月に実施した小学校のおはなし会、小中合同で行った絵本の広場では、読み聞かせで本を読んだり、聞いたりしたことで児童や生徒がさらに読書に親しむことができた。	
次年度への改善点	
朝の読書や読み聞かせの日を継続し、読書に親しめる機会とする。また、調べ学習でも図書室や図書館から借りた本を活用するなど読書機会を増やしていく。 中学校では、目標の数値に7%足りない結果となった。呼びかけは十分に行ってきたが、意識付けをさらにするために教科用図書に関連した本を展示したり、先生が紹介する教科に因んだ本を用意したりして、生徒に読書をする機会を設けていく。さらに、本年度は実施できなかった、4月に図書室の利用説明をして、年度初めから生徒へ図書館や教室で読書ができる環境を整えていく。	
取組内容③【8 生涯学習の支援】(教務)	B
昼休みや放課後の図書室開放や、学習時間での図書室利用を増やして読書についての意識を向上させる。	
指標 図書室の利用、本の貸し出し冊数を前年度より向上させる。 前年度：小 15,596 冊・中 1,048 冊	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
1月30日までの貸し出し冊数は、小学校 16,204 冊、中学校 432 冊であった。 小学校では昼休みに委員会活動で図書館開放を行い、年間を通して1か月に平均約 1,800 冊貸し出しがあり、多い月では 2,206 冊の貸し出しがあった。下半期の10月～1月では平均約 1,900 冊の貸し出しがあり、10月の読書週間の効果が大きかったと考えられる。 中学校では、年間を通して1か月に平均約 50 冊貸し出しがあり、上半期より平均約 10	

冊増加した。利用者数は、上半期 129 名であったが下半期 615 名と約 4 倍になり、給食時に利用を促す図書館開放のお知らせを行ったことが要因と考えられる。しかし、貸出冊数については、目標値に 315 冊足りない結果となった。また、下半期から利用できる学年を 1 学年から 2 学年に増やした結果、各月の利用者は少しずつ増加している。	
次年度への改善点	
次年度は、年度初めから利用学年を 2 学年に増やした状態で 5 月から文化委員会で図書館開放を始められるように準備を進めていく。4 月には図書館の利用説明をしたり、図書館の貸し出しを職員で行ったりして、年度初めから図書室の利用を始められるようにする。	
取組内容④【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】（管理職） 教職員の働き方改革に関する目標を設定し、夏期と年末年始に学校閉庁日を設定する。	B
指標 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 85%以上にする。 <div>前年度：87.3%</div>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
学校閉庁日を夏季休業中に 5 日間、冬季休業中に 2 日間設け、特別休暇や振替休日以外に有給休暇を取得し、週 1 回ゆとりの日やノー残業デーを設けリフレッシュできるよう促した。また、時差勤務の利用や休憩時間の変更、休日出勤については半日または 1 日の代休を取りやすいよう勤務時間の配慮を行った。 年間の有給休暇取得の割合は、3 月中旬時点で 89.4%となり目標を達成することができた。	
次年度への改善点	
長期休業中には休暇を取りやすいよう学校閉庁日を設けるとともに、休暇が取得しやすい環境を模索し整備していく。また、引き続き教職員の健康診断受診状況や受診結果を確認するとともに安全衛生委員会では産業医と超過勤務時間や健康状態を共有し、必要に応じて産業医面談を実施していくことで教職員の健康状態を常に留意する。	